

地質ニュース

特集 NO. 4 1954-10

地質調査所

日本の天然ガス

天然ガスとは

「メタン」を主成分とする天然ガスは、諸外国においても古くから経済的に重要視され開発利用されてきた。日本では、今次の戦争中に極端に燃料事情が悪化したのにつれて、石油や石炭等の不足をおぎなう意味で、その開発が注目されてきたが、終戦後は更に需要が急増し、わが国の天然ガスについて組織的な調査と開発が本格的に行われるようになった。

可燃性の天然ガスは熱源として優秀な性質をもつばかりではなく、その主成分であるメタンは各種合成化学工業の原料としての性質も備えており、又その埋蔵量は相当大きいと思われるので、大切な資源として国内の天然ガス埋蔵の様子を急いで調査する必要がある。

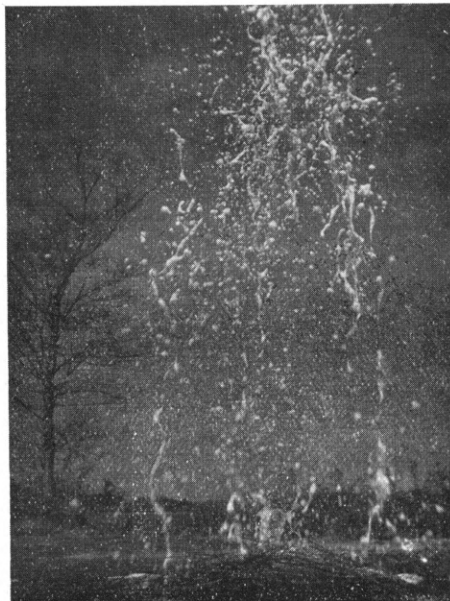
天然ガスの調査方法としては、地表から調べる地質調査の外に地化学調査・物理的調査などがあるが、要するにガス層の状況を最も簡単に、しかも正確に把握するために案出されたもので、各地域毎の特性によつて、どの

調査方法が最も適当かということも決まる。

わが国でここ十年來特に開発利用の面から重要視されてきたのは、多量の水を伴つて地下から湧出してくる共水性ガス（又は溶解性ガス）で、この場合にはガス及び水の地球化学的な特性をとらえてガス鉱床の様子を調べていく、いわゆる地化学調査が有効な調査法になる場合が多い。

これに反して油田ガス・炭田ガス・その他の水を余り伴わないガスに対しては、主としてガスの地中におけるたまり具合を規定する物理的な状況を知る調査法がとられ、それらに対する地化学的な調査法の適用は、ごく最近私達の手で始められた程度であつて、これは將來の研究課題である。

かくして現在まで日本各地のガス田に対し、主としてその調査当時におけるほぼ最良と考えられた方法によつて調査が行われてきたが、その結果から日本のガス田の大略と、將來問題とすべき事柄などの概略を以下に述べてみよう。



笠市高く自噴する天然ガス（大多数天然ガスKK提供）